

吉川剣道少年団 念願の初優勝

(中学生男子の部)

だ剣 道

No. 157

2・3・4月号

三木市剣道連盟
広報部
2012(平成24)年
4月24日(火)
発行

○第35回東播少年剣道大会/吉川優勝

(1・2面)

○関西ブロック剣道大会/別所が準優勝

(2・3面)

○6高校合同合宿

(3面)

○志染30周年記念大会
99回昇級審査(4・5面)

○審判講習会・月々の便り (6面)

◎本紙は三木市剣連HP
(<http://mikikenren2011.web.fc2.com/>)

でもご覧になれます。PDF
でカラー印刷できます。

平成23年度の掉尾を飾る、当東播地区の剣道大会では最大の大会である「第35回東播少年剣道大会」が、平成24年3月25日(日)、加古川市立総合体育館で開催され、多数の来賓、関係者を集め、にぎにぎしく始まった。

我が三木市剣道連盟傘下からは、小学生男子の部6教室、同女子は緑が丘のみ、中学生男子の部は、三木中央と吉川の2チーム、同女子はエントリーが無かった。開会式では、松本敏和大会会長(加古川市剣道連盟会長)が、挨拶に立ち、感銘深い話をされたのち、当大会が加古川市立総合体育館の内、メイアリーナで行われず、サブアリーナにあり、観客席が手狭になるなど、御不便をかけること詫びられた。

続いて功労者表彰に移り、東播地区17名の功労者に混じって、三木市からは神澤正輝・大柴敏昭・澤田薫の3先生に松本大会会長より表彰盾が授与された。この大会は、



功労者に対する表彰盾の授与

当地区の県民局青少年本部からの支援を受けており、その趣旨を生かしてこれまでにない取り組みも見られた。大会の進行役のアナウンスを中学生に任せたり、通常一人の代表が行う選手宣誓も4人の小学生代表が長い宣誓文を分担して述べたりするなど、一味違った運営が見られた。また当日配布されたプログラムには各市代表1名の作文が掲載され、三木市からは吉川の中学生、川崎将平君の作文「一人の剣士として」が載った。

試合は、小学生男子の部から始まったが、三木中央、自由が丘、緑

が丘、別所、志染とそれぞれトーナメント1回戦で姿を消し、わずかに吉川剣道少年団が明石の「あけぼの少年剣友会」「八幡少年剣道教室(加古川)を退けたものの、3回戦で強豪「印南剣道場A」に敗れた。

中学生男子の部は28チームがエントリー。昨年準優勝の吉川チームは、緒戦、3年生をずらり揃えた「播磨町少年剣道クラブ」を退けて勢いに乗り、2回戦明石の「剣道場明武館」を代表戦で破った。代表川崎の見事なメンが会場をどよめかせた。3回戦では「北野少年剣道教室B(加古川市)に3-0、準決勝戦でも竜東館(高砂市)を3-0と圧倒、遂に昨年涙をのんだ優勝



大将川崎(吉川)がまさにメンに跳び込まんとするその一瞬

戦に駒を進めた。我が「吉川剣道少年団」チームは印南ほか強豪を降

して勝ちあがってきた「北野少年剣道教室A」チームを寄せ付けず、先鋒石田、次鋒橋間ではや、決着をつけ、余裕の勝利だった。吉川チームは3年生は石田論史君のみ。小柄で敏捷なのが売りのチームだ。

この日、全勝の石田を始め、橋間祐久のゴテ、川崎将平の見事な跳び込みメンなどそれぞれが味を出して去年の準優勝に引き続き、初優勝に輝いた。

	先	中	大
吉川	石田 ⓧ	橋間 ⓧ	川崎
北野A	原	木村	ⓧド 土井

決勝戦の試合結果

念願の優勝旗をいただく吉川チームの選手

【二人の選手たちの感想】

○全勝した石田論史君「後がしつかりしていたので安心し、落ち着いて戦えました。」

○橋間祐久君「前に負けた相手に勝って名譽挽回ができました。」

○大将川崎将平君「全力を尽くしました。気分爽快です。」



優勝を決めた直後の3人
左から川崎、橋間、石田の各選手

思えば昨年6月の「兵庫県少年剣道の集い」で十中八九手にした優勝を逸し、無念の涙をのんで悔しがられた故手島昇先生、照寛あれ、先生の遺徳は立派に子どもたちに受け継がれ、先生の教えを守って無心に戦った結果三木剣連初の、中学生優勝旗を手にしたのであった。

別所剣道教室、粘りの準優勝

(低学年の部、団体戦)

第32回関西ブロック少年少女剣道大会

今年度最終の3月31日(土)、新日本スポーツ連盟兵庫が主催し、県、神戸市、兵庫県教育委員会などが後援する「第32回関西ブロック少年少女剣道大会」が、県立文化体育館で行われ、兵庫・大阪・岡山等の少年剣道団体28チームが結集して優勝を争った。

我が三木市から参加したのは、「志染スポーツ少年剣道部」と「三木別所少年剣道教室」。試合は小学1年生から6年生まで各学年男子(1、2年は男女混合)、3・4年、5・6年各女子、それに中学生男女別各学年通しの個人戦が行われ、団体戦は、小学4年生以下の低学年の部、5・6年の高学年の部、それに3人制の中学生の部があった。

成瀬沙弥 銀、金井秀真・照井葉生が銅

個人戦では、「小学1年生の部」で、22名中、志染の金井秀真、照井

葉生が3位に入賞し、「小学3・4年女子の部」で、別所の成瀬沙弥が、可知剣道スポーツ少年団(岡山)の苦田紗歩と接戦し、惜しくも敗れはしたが準優勝に輝いた。

団体戦では、別所が低学年、高学年の部各1チーム、志染は高学年の部にエントリーした。

志染チームは、2回戦で、早くも優勝した「己勝館」チームと当たり、上位進出を阻まれた。同様、別所チームも、1回戦をものにしたが、3位入賞の「成文剣友会」に2回戦で敗退した。唯一健闘した低学年の部別所チームは、接戦に次ぐ接戦で勝ちあがり、遂に優勝戦に進出した。

冴えた檜皮采配、

稲岡奮闘

緒戦、別所は岡山県から唯一参加した「可知剣道スポーツ団B」と対戦し、4-0で一蹴。次いで2回

戦「平野剣道教室B」も難なく退けた。3回戦からはさすがに苦しい戦いとなった。この大会で過去輝く実績を誇る名門「剣竜会」は2チーム出場、そのAチームとなると、たやすい相手ではない。常勝「己勝館A」と、選手層の厚い「北六甲台剣友会A」を降して3回戦に進出している。果たして予断を許さない接戦となり、両者がつぶりて勝敗は決まらなかつた。この試合大將稲岡のドウがチームを救ったのだ。代表戦である。楡皮監督は1本負けした次鋒二杉を敢えて指名、それが見事に当たり二杉、剣竜会代表田所をコテに破つてベスト4に進出した。

準決勝戦の相手は、大阪の「生駒剣友会」である。これも双方譲らず代表戦にもつれる。楡皮監督、今度は副将中本を選んだ。生駒の代表宇佐幹君、3年生ながら個人戦3位の實力者だ。しかし、中本落ちていてこの相手をメン1本に仕留め、別所チームは遂に優勝戦に駆け上がった。

優勝戦で別所チームに立ちほだかつたのは、「可知剣道スポーツ少年団A」、チーム内に4年生の女子選手が多い。それがめつぼう強かつた。先鋒成瀬沙弥、メンの1本

勝ちで幸先はよかつたが次鋒二杉、中堅生友は相次いで1本負けを喫し、1-2で苦しい。副将中本が2本勝ちして踏ん張り互角に戻す。さあ大將戦である。大將稲岡はこの日得意のドウがよく決まり、個人戦でも活躍した。開始早々コテをとり、優位に立つ。このまま逃げ切れれば優勝？そんな期待も一瞬チームメートの脳裏によぎつただろうが、相手大將苦田は落ち着いていた。すぐさまメンで返し、さらに1本メンを奪いあつさり逆転した。粘りの別所も、あと1本及ばなかつた。まだまだ試合経験の不足もあつたし、駆け引きも下手だつた。



見事に準優勝した別所少年剣道教室

しかし、チームとしては粒が揃つていて、平成24年度はひと暴れしそうな予感がする。

なお本大会の大会会長は、三木市剣道連盟会長、高橋洋三氏がつとめた。

6 高校 50 余

名の春合宿

三木ホースラランド

春休みを利用した、恒例の高校剣道部の合同合宿が、武中敏彦三木東高校剣道部顧問の呼びかけで行われ、3月27日(火)〜29日(木)までの3日間、充実した稽古が出来た。参加したのは、三木北、社、柏原、三田祥雲館、小野工業、三木東の6校、生徒43名、指導顧問ら9名、計52名だつた。

27日、朝9時に現地集合した一行は、午前、午後、夜と3部練習をこなし、夜の稽古では、三木市剣道連盟からも高橋会長始め8名の会員が、他に三木東高校のOB達も含めると10数名が元立ちとして稽古に参加した。

翌28日は、午前の稽古を終えると、場所を三木東高校体育館に移し、約3時間の猛稽古。午後から三



合同合宿参加の高校剣道部員たち

木高校も参加し、活気ある稽古会となつた。

最終日の29日は、昨年同様、合宿の締めくくりとして三木東高校体育館で練成会を行った。今年も東播を中心に、西播、神戸、阪神、但馬、丹有の各地区から20数校230名が参加して終日練習試合を行い、合宿の仕上げとした。

世話に当たつた武中先生は、「多くの三木剣連の会員が稽古に参加してくださつて、生徒にとっては稽古そのものが有意義であつただけではなく、応援していただいていることを実感し、大変励みになりました。誠にありがとうございます。例年以降も出来る限り続けていきたいと思つたので、これからもよろしくお願ひします」と語つている。

志染スポーツ少年団

創立三十周年記念剣道大会

—まっすぐ剣道の真骨頂を發揮—

『「相手を思いやる心」「感謝の心」
剣道を通じて、人の心を大切にす
る人間に成長してほしい』。部創設
時、指導者の澤田薫氏や保護者の
願いは『剣心』という二文字にし
ためられた。会場正面に団旗とし
て掲げられたエンジに白抜きのも
れは、延喜式内社としての格式あ
る御坂神社の当時の宮司 松下俊
彦氏揮毫によるものである。以来
三十年、部の象徴として、また、廠
かな存在として常に志染の剣士達
を見守り続けているのである。

平成24年1月14日(土)志染ス
ポーツ少年団剣道部創立三十周年
記念剣道大会が、日々の活動拠点
としている志染中学校体育館にお
いて開催された。
試合に先立ち行なわれた開会式



「30周年記念大会」参加者全員で記念撮影

では、赤松保護者会代表挨拶の後、
指導に携わる澤田氏、木下穂玄氏
等、六名の指導者へ感謝品の贈呈、

来賓のスポーツクラブ21志染橋田
会長、三木市剣道連盟高橋会長、
志染小学校藤井校長、志染中学校
井上校長、三木市剣道連盟安柄指
導部長各氏から激励のお言葉を受
けた。特に高橋剣道連盟会長から
は、創部以来一貫した「基本中心の
稽古法」に関して、「弱い心に打ち
克ち、嘘やごまかしをしない精神
面での指導方針」に対して賞賛の言
葉が贈られた。

さらに、志染主将赤松伸哉君の
力強い選手宣誓に引き続き、開会
式直後には四年生指揮の下、三年
生以下の部員による「木刀による
剣道基本技稽古法」の見事な演武
が披露された。

試合は二コート。午前中は学年



志染スポ少剣道部の選手たち

別個人戦から開始。微笑まじさが
随所に見られた低学年、試合を重
ねることに飛躍した中学年、逞し
く躍動感溢れる高学年。指導者や
保護者、多くの観戦者を釘付けに
した試合内容に会場から温かい拍
手が送られていた。昼食をはさん
だ午後には団体試合。先鋒素振り勝
負、二将には指導者が入る七人戦。
否が応でも教室全体の対抗心が前
面に出され、応援者の過熱ぶりも
尋常ではなくなる。



団体戦に出場した志染Bチーム

先生と一緒に出場する安堵感溢
れる小学生に対して、心地よい緊

張感が漂う指導者。試合に臨む凜然たる態度、面タオルを着す一挙一動、立礼から蹲踞に至る所作、試合開始直後に発せられた迫力の氣勢、隙を突くひと太刀、同じ試合場、間近で見る先生の立ち居振る舞いは、応援する小学生達にとっしてお手本となり剣道修行の上で、大きな財産となつたに違いない。

決勝戦は優勝候補筆頭の吉川に競り勝つた三木中央と地元志染。

予選も同一リーグで再度の対戦となる。先鋒戦、素振りの見極めに目を光らせる審判。互いに退かない低・中学年。息つく暇もなく俊敏に動く中堅の高学年。観客を陶醉させた指導者の対戦。勝敗を左右する一戦となつた六年生対決の副将戦。コート周辺で手を合わせて祈る保護者。声を嗶らし声援するOB達。笑顔で拍手するおじいちゃんおばあちゃん。指導者から飛ぶ叱咤激励。取り囲む熱気により、手狭な会場のボルテージが最高潮に達する中、チームの期待を一身に背負つた大将戦へと突入した。互いに技を繰り出すその一戦は瞬く間



白熱した試合 面決まる!

に二分が経過、笛の合図とともに志染スポーツ少年団剣道部の優勝が決定した。「真つ直ぐ、大きく、

大きな気合いで打つ」創設時より揺るぎないその指導信念が、結果として結び付いた瞬間でもあった。

勝利への祝福と健闘を労う拍手、勝敗に関係なく出場し頑張つた全選手に対しての温かいエールとして会場を包み込んでいた。

今大会は多くのチームを招待する大規模な記念大会とは違い、日頃より親交の深い市内教室のみを迎えての、手作り感の強い温かみある大会であった。当日の穏やかな天候によるものだけでなく、エンジに揃えられたスタッフの笑顔の出迎え

や、少年少女の甲高いお礼の見送り、試合会場であるにもかかわらず、多くの指導者が、保護者が、応援者が、その場にいた誰もが、同じように和みの空気を感じ取つたに違いない。

「相手を思いやる心」「感謝の心」まさに『剣心』の教えが凝縮した大会であり、今後脈々と受け継がれる事であろう。

* 入賞者・入賞団体

【小学1・2年】①照井葉生(志染)
②菅結珠葵(自由)③川崎和(吉川)、多鹿伯(口吉川)

【同3・4年】①橋間祐仁(吉川)
②稲岡拓海(別所)③森岡祥平(緑が丘)、二杉晃平(別所)

【同5・6年】①赤松伸哉(志染)
②日高翔磨(三木中央)③生友佑磨(別所)、池田聖彬(吉川)

【小学女子】①三藤暢子(吉川)②宮田七海(自由が丘)③福田知世(同)、シユレスタ里咲(志染)

【団体】

①志染スポーツ少年団剣道部

②三木中央少年剣道教室

③吉川剣道少年団、三木別所少年剣道教室

第99回級位認定審査会 平成19年度以来、4年 振りの受審者数増加

去る2月26日に三木コミュニティスポーツセンターにて、第99回三木市剣道連盟級位認定審査会が開催されました。近年、受審者の人数が減少傾向にあり心配されましたが、第98・99回と2回連続で30名を突破しています。また、今回は別表にありますように5級の受審者が19名と多く、今後の発展を予感させます。

審査会開催にあたって、三木市剣道連盟高橋会長より、大きな目標を持って、色々なことを行ってほしい。大きな目標は、小さな目標の積み重ねで、試合で勝つことも、小さな目標のひとつです。普段から、先生の言われることを良く聞いて稽古してください。また、今回の受審にあたっては、大きな声を出して、全員が合格できるように頑張ってくださいとお言葉があった。

審査の結果は全員合格であった。しかも採点結果は、ほぼ全員満点でした。この合格率が高いのも最

近の傾向です。その要因を前回の審査会で高橋会長が、開会の挨拶でお話されました。内容は、「指導者レベルが向上し、それに伴って、受審者の技術レベルが向上している。」ということであった。今回も同じく、先生方の指導を良く聞き、受審者が頑張ったため、合格に繋がっています。

2級・3級には、「木刀による剣道基本技稽古法」が要求されます。今回は、講習として行われ、檜皮先生・田畑先生が主体となって行われました。2級は9本まで、3級は6本までです。各自教室で稽古されて、この審査会に臨まれています。まだまだ不十分なところが、両先生から厳しく指導されていました。

最近、昇級審査会終了後には、短時間ですが合同稽古も行っています。今回は、午後から「三木市スポーツクラブ21交流小学生剣道大会」もあり、昇級審査を受審する者だけでなく、各教室の生徒が集まり親睦を深めながら、午後からの試合に向けて、汗を流しながら稽古しました。

(報告 少年部長 大柴敏昭)

平成24年度 審判講習会を実施

平成24年度、三木市剣道連盟最初の事業である審判講習会が去る4月15日(日)、午前9時から三木コミュニティスポーツセンターで行われ、市内の高校剣道部員、一般会員合計約60名が集まり、審判員の心がまえなどについて講話と実技講習を受けた。

小椋治朗・田畑修両氏が懇切丁寧に指導

この日の講師をお願いしたのは、三木市剣道成人指導部副部長の小椋治朗氏(教士7段)と同指導部田畑修氏(錬士7段)。二人は去る3月、大津市で行われた全剣連主催の剣道社会体育指導員養成講座の上級講習を受講、優秀な成績を取っている。

小椋氏は講話で「審判をされた方に聞きます。『剣道試合・審判規則及び細則』をよく読んで審判をしていますか? 審判の在り方はすべてこの本に書いてあります。とにかく熟読して理解すること」と座学的重要性を強調。また、

田畑氏は、「審判員が旗を上げた後でも、選手の動きから目を離してはいけない。試合者と同じく、『審判の残心』



が大切」と、重要なポイントを説明。二人は実技講習でも挙動、立つ位置、有効打突の見極め、規則の解釈など細部にわたって指導。懇切丁寧、充実した内容に時間が足りないうほどだった。参加者は大いに刺激を受け、学びの大切さと正しい審判の重要性を再確認した一日となった。

(報告 澤田 薫)

「月々の便り」

丹野骨平

謹賀新年

初日に映ゆる 門担ぎ

神代ゆ徳ぶ しめ飾り

初日に映ゆる 門担ぎ

指貫脱ぎてやつと寛ぐ

初日に映ゆる 門担ぎ

苦き口して屠蘇祝ぐ児

初日に映ゆる 門担ぎ

老鶴帰心 万里飛ぶ

初日に映ゆる 門担ぎ

子の触り来る太刀飾り

凍月の悲歌

心して降れ 今年の雪よ

家亡き巷 粧はずとも

心して降れ 今年の雪よ

腹はくちしか 子らよ皆

心して降れ 今年の雪よ

岡に登りし 船揺るる

心して降れ 今年の雪よ

流されし妹 冷たからむ

心して降れ 今年の雪よ

髪乱れども 生きのびむ